

乾性角結膜炎がみられた犬2例の臨床  
ならびに病理学的所見片野修一<sup>1), 2)†</sup> 宮賢次郎<sup>2)</sup> 山我義則<sup>3)</sup> 藤原範子<sup>1)</sup>  
森田剛仁<sup>1)</sup> 島田章則<sup>1)</sup>

1) 鳥取大学農学部 (〒680-8553 鳥取市湖山町南4-101)

2) 新潟県 開業 (カタノ動物病院: 〒950-0075 新潟市中央区沼垂東1-5-21)

3) 新潟県 開業 (エルム動物クリニック: 〒950-2055 新潟市西区寺尾上3-10-13)

(2009年8月5日受付・2009年10月5日受理)

## 要 約

今回、角膜に潰瘍性病変を呈した犬2例に対してシルマー涙液試験(STT)を含めた眼科臨床検査および涙腺組織を含めた眼球に対する病理学的検査を行った。その結果、2例とも臨床的に乾性角結膜炎(KCS)と診断された。また、2例の涙腺および唾液腺組織の間質にリンパ球を主体とする炎症性細胞浸潤が認められた。涙腺組織における腺房の破壊像もみられた。犬のKCSの背景である涙腺組織の機能障害の一原因として、涙腺組織の免疫介在性炎症が示唆されている。今回の犬2例にみられたこれらの所見が人のシェーグレン症候群と同様の自己免疫性の機序に関連するものかどうかについて、今後詳細な検討が必要と考えられた。——キーワード: 犬, 乾性角結膜炎, シルマー涙液試験。

----- 日獣会誌 63, 131~135 (2010)

† 連絡責任者: 片野修一 (カタノ動物病院)

〒950-0075 新潟市中央区沼垂東1-5-21

☎025-244-4901 FAX 025-244-4902

E-mail: skatano@seagreen.ocn.ne.jp